快い刺激

細川芳樹（教育・昭和 52 年卒）

37 年間の小学校勤務を終え、はや 11 年が過ぎた。退職後 2 年間は図書館へ勤めたが、その後は、家業の農業を行っている。親の時代は、専業農家であったので田畑を合わせると相当の広さである。米、ミカン、ブドウの栽培を行っている。現職の頃から手伝っていたので、作業手順等に不安はなかったが、近年の猛暑の中での作業はなかなかたいへんである。先祖からの土地であるので、もうしばらくは続けたいと思っている。

今は、農業人としての生活が主体であるが、たいていの人々がそうであるように、退職後は様々な地域の役職がついてくる。私も、人権擁護委員、社会福祉協議会、老人ホームの第三者委員等の地域活動も行っている。

そういう生活の中で、毎年楽しみにしている活動がある。それは、わが町内の 3 小学校の希望者を対象に行っている“夏休み子ども寺子屋”である。この活動は、夏休みに子どもたちの居場所をつくり、様々な体験活動を支援しようと十数年前から始めた企画である。過去に理科教員として活動していた関係からか、10 講座ある中の科学実験教室を担当してくれないかと声がかかる。巨大シャボン玉・バターづくり・空気砲・万華鏡・ブンブンゴマ等、工夫しながら行っている。毎年、多くの子どもたちが応募してくれるので、“今年は何の実験・製作にしようか”と考えるのも楽しみのひとつである。過去に、この講座を受講した中学生にもアシスタントとして手伝ってもらいながら、作り出していく喜び・知らなかったことを体験する喜びを味わってもらっている。

子どもたちの夢中になっている姿を見ると何とも言えない喜びを感じるのである。教員時代に戻ったように思えるひと時である。ふだんの自然を相手に作物を作っている生活に快い刺激を与えてくれる貴重な活動となっている。

ただ、この“夏休み子ども寺子屋”の企画も様々な事情から今年が最後になる。ちょっと残念である。